

第三目 魚雷兵器取扱ニ關スル教範、諸則

魚雷及發射機等關係兵器ノ取扱ニ關スル法規ノ創始ハ明治二十一年一月魚形水雷艦内取扱訓令(冊子)
トシテ發布セラレタルニ在リ該訓令ハ専ラ獨式魚形水雷(朱式)ニ關スルモノニシテ當時祕密ノ故ニ之
ガ印刷ヲ特ニ海軍兵學校ニ依託セシ事實アルモ其ノ内容ノ詳細及爾後ノ改廢等ニ就テハ知悉シ得ザル

ヲ遺憾トス而シテ直接取扱者タル准士官下士官等ノ参考トシテハ明治二十四年水雷術練習所ニテ編纂セル掌水雷必携ヲ以テ之ニ充ツルノ狀況ニ在リ要スルニ正式ニ教範、操式ノ形式ニ依リ發布セラレタルハ三十七八年戰役以降ニ屬ス即チ當時ニ在リテハ新兵器ノ採用供給ニ伴ヒ先ヅ造兵當局編纂ノ取扱心得ニ依リ當面ノ應急ニ充テ用兵側ニ於ケル若干期間ノ試練ノ結果ニ基キ教範草案ヲ次デ教範ヲ制定スルヲ例トセルモ或ハ已ニ實施部隊ニ供給セルニ取扱心得書(説明書)ノ發布ヲ見ズ水雷學校ノ教科書ニ依リ漸ク瀾縫的ニ當事者ニ教示セルガ如キ場合少シトセズ殊ニ大正四五年以降水雷諸兵器ノ進歩發展ノ急激顯著ナルニ及ンデ然リトス而シテ前記取扱訓令以後此種法規(心得書)發布ノ嚆矢トモ見ルベキハ明治三十三年内令第十二號ニ依ル兒玉造兵大監意匠ニ係ル魚形水雷衝突頭部(朱式十四尹魚形水雷ニ限り使用)使用法ヲ定メ發布セルニアリ摘要左ノ如シ

朱式十四尹魚形水雷用衝突頭部使用法摘要

- 一、發射距離ハ三百米以上トス
- 一、目的トスベキ艦船ハ水線下ニ於ケル外板ノ最薄ナル厚サ十耗以上ノモノニ適用ス其ノ艦船別表ノ通
- 一、外板ノ射撃ヲ受ケタル部分ハ塗具剝脱スルヲ以テ直ニ外板腐蝕ノ防禦法ヲ施スベシ
- 一、外板ニ有害ナル腐蝕若クハ弛ミ等ヲ生ジ危險ト認メタルモノハ厚サノ如何ニ拘ハラズ之ニ發射ヲ爲スベカラズ
- 一、發射ハ成ルベク艦船入梁ノ時期ニ近ヅキタルモノニ行フベシ

爾後三十七、八年戰役前後ニ互ル期間ニ於ケル關係諸規定ヲ摘録セバ左ノ如シ

發布年月	關係令達	規定摘要	記事
三十四年十一月	内令 第四百十號	安式水中發射管取扱心得	
三十四年十一月	内令 第四百一十一號	保式魚形水雷及附屬機保存取扱法	
三十五年 二月	内令 第四百十三號	保式魚形水雷命中發射規則	(別紙第一、參照)
三十五年 二月	内令 第十七號	艦團隊ニ供給スル保式魚形水雷發射試驗規則	四十一年十二月内令兵第三號リヨリ保式魚雷命中規則ヲ定メ上記規則ヲ廢ス (別紙第二、參照)
三十六年十一月	内令 第四百十三號	保式魚形水雷縱舵調整器取扱法	(別紙第三、參照)
四十一年十二月	内令兵 第三號	保式魚形水雷命中發射規則	(別紙第四、參照)

三十七八年戰役終ルヤ同戰役中ニ於ケル水雷攻撃ノ成果ニ鑑ミ斯術ニ關シ一層層ノ進展ヲ要望スルノ聲上下ニ喧ヒシク各種ノ研究調査行ハレシガ同戰役中ニ於ケル水雷戰成果ノ豫期ニ達セザリシ基礎的原因ハ用兵者側ニ於ケル之ガ取扱保存方法ノ適切熟達ナラザリシニ存スルモノ多ク而カモ尙其ノ根柢ハ從來之等兵器ノ取扱保存ニ關スル統制アリ權威アル教示の令達ノ不備ナリシ點ニ在ルヲ覺リ明治四十年末ヨリ之等教範ノ起案ニ着手シ四十二年五月ニ入り内令第三百三號ニ依リ保式魚形水雷取扱教範ヲ

又同年同月内令第六六號ニ依リ發射機取扱教範ヲ夫々制定發布セラルルニ至レリ之レ實ニ此種教範ノ嚆矢ナリ參考ノ爲各目次内容ヲ左記ス

四十二年 制定 保式魚形水雷取扱教範

〔本教範ハ「魚雷」三八式二號以前ノ各式ノ教範〕ト改稱セラルル(大正六年内令三六號)

總 則

- 一、本教範ノ目的ハ魚雷及其ノ附屬具ノ取扱ニ關シ一般ニ服膺スベキ注意ト準據スベキ方法ヲ知得セシムルニ在リ
- 二、魚雷ノ構造ハ頗ル複雜精巧ヲ極ムルモノニシテ摺合面一部ノ不良ハ挿栓一小母螺ノ弛緩不適ト雖全ク其ノ機能ヲ亡失スルニ至ラシムルコトアルノミナラズ自己ノ魚雷ヲ以テ却テ自艦ヲ害スルノ禍ニ陥ルコトアルベシ故ニ之ガ取扱ニ任ズル者ハ能ク其ノ機能構造ニ精通スルト共ニ取扱ニ熟達シ加フルニ細心注意此二事ト雖勿論ニ附スベカラズ
- 三、魚雷ノ諸調整及諸試驗ハ實ニ魚雷取扱上ノ主腦ナリ其ノ微妙ニシテ精緻ノ伎倆ヲ要スル點ハ克ク筆紙ノ盡スベキニアラズ要ハ其ノ構造機能ニ精通シテ熟練ヲ重ネ自ラ其ノ機微ヲ會得スルニアリ
- 四、發射ニ先チ行ヘル調整ト試驗ノ成績ハ發射後ノ狀態ト結果トヲ豫測シ得ベク又之ノ等ノ狀態ト結果トニ依リ其ノ原因ヲ判斷スルヲ得ベシ教練ノ價值實ニ茲ニ存ス故ニ監督者ハ最

四十二年 制定 發射機取扱教範

總 則

- 一、本教範ハ各種發射機ノ分解取扱等ニ關シ一般ニ導守スベキ方法ヲ規定ス
 - 二、本教範ハ發射機操式、魚形水雷發射教範及魚形水雷取扱教範ト相俟ツテ初メテ魚雷ノ能力ヲ完全ニ發揮シ其ノ効果ヲ收メ得ベキガ故ニ各員ハ克ク本教範ニ通曉シ以テ發射機活用ノ妙域ニ達セムコトヲ要ス
 - 三、發射機及其ノ屬具ハ構造甚ダ精巧ヲ極ムルガ故ニ微少ノ瑕瑾過誤モ忽チ魚雷ノ沈没其ノ他ノ故障ヲ惹起シ其ノ効果ヲ絶無ナラシムルコトアルベシ之ヲ以テ發射機ヲ取扱フニハ豫メ其ノ機能構造ヲ熟知シ次テ本教範ニ則リ確實且對然タル順序ヲ以テシ然モ細心周密ナル注意ヲ拂ハザルベカラズ
- 第一編 水上發射機
 保式水上發射管―安式水上發射管―加式水上發射管―落射機
- 第二編 水上發射機
 安式舷側水中發射管―安式艦尾水中發射管

モ意ヲ調整ト試験ニ用キ之ヲ結果ニ照シ啓發スル處無カルベカラズ

五、本教範ハ保式十四吋二六式、同三〇式、三二式、同十八吋

三〇式、三二式、三八式(二號)魚雷及之等ノ附屬具ニ就キ定メアルヲ以テ其ノ他ノ魚雷ニアリテハ適用シ得ル限り之

ニ準據スルヲ要ス

六、下瀬火藥裝填ノ頭部及爆發尖ノ取扱貯藏法ハ別ニ定メタル

下瀬火藥取扱心得ニ準據スルヲ要ス

第一編 分離、分解竝ニ結合組立法

第二編 魚雷竝ニ附屬器調整法試験法竝ニ之ニ要スル諸注意

第三編 保式魚雷及附屬具取扱、手入、運搬、貯藏法

第四編 魚雷故障ノ原因

第五編 保存手入ニ要スル材料及使用上ノ諸注意

爾後關係兵器ノ更新改廢竝ニ増加ニ伴ヒ其ノ都度概ネ教範ノ改定アリ其ノ内容ニ於テ當初ハ機能構造ノ説明的ニ且リシ部分少ナカラザリシガ之等説明ハ學校教科書ニ讓ルヲ適當ト認メ漸次其ノ保存及取扱ニ主力ヲ盡ス如ク改善シツツ今日ニ及ベリ左ニ用兵側ニ關係アル之等教範又ハ諸法規ノ制定發布ヲ表記シ參考ニ供ス尙特記スベキハ既記セル發射機操式若クハ發射操式ノ場合ト同ジク實施部隊側ニ於ケル事故傷害等ニ因リ之等教範ノ一部ヲ改定セルコトアリシコト之レナリ

年月日	令 達 別	摘 要 (呼 稱)	記 事
四十四年	內 令 一四一	保式魚形水雷及附屬機保存取扱法	
四十三年	內 令 一三	兒玉造兵總監創意衝突頭部附魚形水雷發射心得	
四十五年	內 令 一二	魚形水雷命中發射規則	
四十五年	內 令 七	魚形水雷氣室各種氣蓄器及空氣壓搾唧筒保存取扱法	
大正三年	內 令 八二	水上、水中發射機教範	
大正五年	內 令 三六	兒玉造兵總監創意衝突頭部附魚形水雷發射心得	
大正六年	內 令 二〇	縱舵機安全裝置附魚形水雷發射心得	
大正六年	內 令 五〇	水中發射機(安式二十一吋)發射管	
同	內 令 一一二	魚雷(四三式)教範	
同	內 令 一一三	縱舵機(四〇式、三年式)教範	
大正七年	內 令 兵 五	四五種魚形水雷演習兼衝突頭部使用心得	
大正九年	內 令 兵 三一	魚形水雷演習兼衝突頭部使用心得	
十二年	內 令 一八二	魚雷(六年式)教範	

別紙第一

保式 甲種 水雷 取扱法 (摘要)

- 一、保式甲種水雷ハ約七大氣壓ノ調和氣壓ヲ以テ機關ヲ發動シ十四尹水雷ニ在リテハ二千五百米十八尹水雷ニ在リテハ三千米ノ距離ニ於テ殘氣五乃至十大氣ヲ得ルガ如ク調整スベシ
- 二、甲種水雷トシテ使用スル場合ハ發射距離ヲ更定スル外調和器乙種彈子ヲ除去シ特ニ供給セラレタル甲種彈子ト取換フベシ
- 九、甲種水雷ハ縱舵調整器ヲ附着セズシテ發射スベカラズ
- 十、水雷ハ特令アルニ非レバ常ニ乙種發射ノ裝置ヲ附シオクモノトス
- 十一、甲種水雷ヲ演習用ニ發射スルトキハ必ず發光器ヲ附着スルテ例トス
- 十二、甲種水雷ハ演習ニ際シテハ當分ノ内夜間ニ於テ發射スベカラズ

昭和二年	内令	三二六	四年式縱舵機教範	現行教範(大正六年制定ニシテ四〇式以後ノ各種ヲ含ム)中四年式ニ關スルモノ不備ノ點多キニ依ル
十三年	内令	三八	水雷用火工品教範	

艦隊ニ供給スル保式魚形水雷試験規則(摘要)

- 一、艦隊ニ供給スル保式魚形水雷ハ造兵廠兵器廠若クハ要港部工場ニ於テ命中發射試験ヲ爲スモノトス
- 二、命中發射試験ヲ爲スニ先チ水中發射艇ヨリ固定縱舵ノミヲ以テ四百米ノ距離ニ於ケル靜止標的ニ向ツテ二回引續キ發射シ以テ水雷ノ著ルシク編行スルナキヤヲ確ムベシ
- 三、命中發射試験ハ縱舵調整器ヲ附着シ甲乙兩種ノ彈子ヲ使用シ水中發射艇ヨリ各二回宛左表ノ距離ニ向ツテ發射スルモノトス但シ水上發射管ニ供用スルモノニ在リテハ乙種彈子ヲ使用シテ尙一回水上約五米ニ裝備セル發射管ヨリ本表ノ距離ニ向ツテ發射シ尙甲種彈子ヲ使用シテ一回水上發射管ヨリ近距離ニ向ツテ發射シ機關ノ發動スルヤ否ヤヲ確ムベシ

水雷ノ形式	乙種彈子ヲ附着シタルトキ	甲種彈子ヲ附着シタルトキ
$\frac{14 \times 15}{52} \times 90 \text{ 尺}$ 、 $\frac{14 \times 51}{50} \times 100$	八〇〇米	二五〇〇米
$\frac{45 \times 5}{100} \times 90 \text{ 尺}$ 、 $\frac{45 \times 5}{90} \times 100$	一〇〇〇	三〇〇〇
$\frac{45 \times 6.5}{90} \times 150$	一一〇〇〇	—

- 四、命中發射試験中水雷ノ進行ハ實際上眞直ニシテ左右ノ偏斜ハ左表ノ範圍ナルヲ要ス(表略)
- 五、乙種水雷ノ平均速力ハ左表ノモノ以上ナルヲ要ス(水上發射用ノモノハ二回)(表略)
- 七、命中發射試験中最遠距離ノ標的ニ於ケル實際深度ハ調整深度ヨリ上下ニ四十櫛以上ナルヲ要ス

九、命中發射試驗中深度計及傾斜計ヲ各一回宛附着シテ發射シ其ノ指示圖ヲ艦團隊ニ交付スベシ
 十二、命中發射試驗ヲ終レル水雷ヲ艦團隊ニ供給スルトキハ別表甲、乙ノ成績表ヲ添付スベシ(表略)

別紙第三

明治三十六年 制定保式魚形水雷縱舵調整器取扱法(摘要)
 十一月

一、縱舵調整器ノ調整ハ陸上又ハ艦船ニ於テ之ヲ行フモノトス 但シ艦船ニ於テ調整スル場合ニハ海上靜穩ニシテ艦體ノ動搖セザル日ヲ選ビ調整臺ニバ照準裝置ヲ設ケ速距離ノ地物ヲ注視シナガラ艦ノ振レ廻リニヨル獨樂軸ノ變位ヲ防止スルヲ要ス
 二十六、縱舵調整器ハ連續發射三回以上ニ及ブトキハ多少變調ヲ來スコトアルヲ以テ其ノ以後ハ每發水雷ヲ靜カニ左右ニ振り動作ノ正確ナルヲ檢シタル後發射スベシ

別紙第四

保式魚形水雷命中規則制定要旨

明治三十五年二月二十六日內令第十七號艦團隊ニ供給スル保式魚形水雷發射試驗規則ハ魚形水雷ノ進歩發達ニ伴ヒ改正ノ必要アルヲ認メ其ノ内容ニ改正ヲ加ヘ保式魚形水雷發射試驗規則トセリ改正ノ主旨及要旨左ノ如シ

一、從來甲乙兩種ノ調和器彈子ヲ水雷ニ裝置シ之ヲ甲種水雷、乙種水雷ト名ケタルモ單ニ一小彈子ノ變更ニ依リ水雷ヲ甲種、乙種トスルハ類別上穩當ナラズ故ニ本案ニ於テハ一種ノ彈子ヲ用セ其ノ壓縮ノ度ニ依リ速力ヲ加減スルノ裝置トナシ甲種發射、乙

種發射ト爲セリ

二、從來甲種水雷ノ速力ハ過分ナル射距離ノ要求ニ依リ十五節ノ上ニ出テザルニ標的タル艦艇ノ速力ハ今ヤ益々増進スルヲ見ル從ツテ水雷ノ命中益々困難トナル故ニ本案第三條ニ依リ水雷ノ速力ヲ艦艇ノ速力ニ應セシムルト同時ニ適當ナル射距離ヲ要求セリ

三、從來水雷ノ調整深度ハ三米ナリシモ本案ニ於テハ現今軍艦ノ吃水増加セルヲ以テ四米半トセリ

四、從來魚形水雷ハ發射成績表ニ依リ其ノ現狀ヲ知ルニ止マリ過去ニ於ケル發射數、修理改造ノ程度等ハ毫モ知ルコト能ハザリシモ水雷ノ保存上之ヲ知ルノ必要アルヲ認メ本案ニ於テ新ニ魚形水雷經歷簿ヲ制定セリ